

【高圧洗浄機のトラブル】

高圧ポンプ・配管が凍結すると！

1. 水抜きされずに保管していると水が凍結で膨張し、配管等が変形します。
2. そのまま始動してしまうと高圧ポンプや配管が破損します。

急な寒波などで思わぬ事故を防ぐために作業終了時は水抜きを行う習慣を日ごろからつけておきましょう。

凍結したと思ったら！

1. お湯をかけて解凍する。(水の通る部分全てに必要)



熱湯をそのままかけると配管等が破損する恐れがあります。解凍する部分にタオルなどをまいて、50～60℃程度のお湯をゆっくりかけて溶かしていきます。この時にモーターやエンジン、電気配線にかからないよう注意します。(ホースやガンも同様に解凍が必要です。)

2. 暖かい場所に移動させるか、気温上昇を待って自然解凍する。

凍結状態の確認方法はホース部分の弾性やエンジン式の場合はゆっくりリコイルを引き、抵抗の増大を確認する。また、水道が近くにある場合は吸水口につなげて水の出具合を確認する。

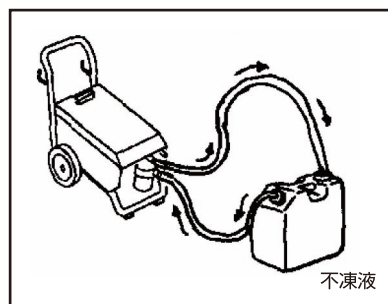
*この確認は目安的な判断となりますので、凍結している可能性のある場合は上記の解凍処置を行うことをお勧めします。(水抜きしている場合も配管内に残った水が凍結するため解凍が必要です。)

*解凍後の運転時は水漏れが発生していないか必ず確認すること。

凍結させないためには！

1. 作業終了時に不凍液を循環させておく

不凍液を 5L 程度容器に入れ、水抜きを行った洗浄機の吸水・余水ホースを容器に入れます。高圧ホースからガンを外し、高圧ホースを容器の中に入れます。(右図)



通常の始動を開始し、不凍液を循環させて下さい。ホースやガンは出来るだけ室内等（凍結のない場所）で保管して下さい。(ガンをそのまま屋外で保管する場合は外さないで圧力を下げて循環させてください。)



水抜きだけでは配管内に残った水が凍結し、そのまま始動を開始するとホースや構成部品を傷つけてしまうことがあります。凍結の恐れのある場合の保管は不凍液を入れて下さい。(不凍液は保管場所の気温に合わせて濃度を調節して下さい。)

